

10 『今昔物語集』の中の身体に関わる表現(一)

計良 吉 則

順天堂大学医学部医史学研究室

『今昔物語集』は平安時代末期に成立した説話集であり、天竺(インド)、震旦(中国)、本朝(日本)の三国にわたる仏教説話・世俗説話一千数十を三十一巻(三巻欠)に収めたものである。その中には高僧から一庶民まであらゆる階層の人々が登場し、生き生きと行動する話が数多く存在する。

『今昔物語集』の中で今回は、本朝仏教説話(巻十一〜二十)において、身体に関わる表現に着目し考察した。そのことは当時の身体観を知るうえで意味があると考ええる。

一、身体の動作や状態を示す表現

第十一巻についてみると、まず特徴的なのは、「行く」「来る」「過ぎる」「出る」などの体の移動や運動に関す

るものが圧倒的に多い。

第二に「自ラ行テ聞クニ」、「来テ是ヲ聞ク」、「行基其ノ前ヲ過ルニ」とあり、第十に「是ヲ給リテ、礼拝シテ出ヌ」とある。

感情・精神作用に関するものが比較的多くみられ、第二に「然レバ、泣テ此ヲ聞ク」、「郡ノ司此ノ事ヲ聞テ、大ニ嗔テ」がみられ、第七に「天皇喜ビ貴給テ」がみられる。

存在を表すものも比較的多く、第一に「諸ノ名僧有テ」、第三に「年来葛木ノ山ニ住テ」とある。

老若に関するものは第一に「前ニ有シ三人ノ老僧」、第二に「其家ニ仕フ下童有リ」とある。

病的状態や死に関する表現は、第一に「此ノ時ニ、国ノ内ニ病発テ死ル人多カリ」、「国ノ内ニ病発テ、民皆可死シ」、「其後ニ、世ニ瘡ノ病発テ、病痛ム事焼割クガ如シ」とある。

生命の誕生に関するものは、第一に「突部ノ真人ノ娘ノ腹ニ生セ給ヘル御子ナリ」、「厩ノ戸辺ニシテ生レ給ヘバト也」とある。

体の清潔に関するものは、第一に「一日二三度沐浴シテ入り給フ」、「沐浴シ洗頭シ給ヒテ、淨キ衣ヲ着テ」とある。

婚姻や契りに関するもの、容貌などに対する美的表現は数少なかった。

二、身体の部分や分泌物を表現したもの

全体を通して多くみられるのが「身」で、第一に「日羅身ヨリ光ヲ放ツ」、第二に「智光身ニ病ヲ受テ死ヌ」、第六に「文ノ道ヲ学テ、身ノ才賢クシテ」などがある。

四肢に関するものもみられており、第九に「二ノ手ニ取テ、二ノ足ニ扶メル也」、「諸ノ人、是ヲ見テ手ヲ押テ是ヲ感ズ」とある。

胸や腹などの体幹に関するものもみられ、第一に「真人ノ娘ノ腹」、「其箭遠ク行テ、守屋ガ胸ニ当テ」とある。

面、首などの頭頸部に関するものもみられ、第一に「守屋ガ頭ヲ斬ツ」、「其後、喉中ニ物ヲ含タルガ如ク思ヘテ」とあり、第四に「首ヲ低テ貴ビ敬ヘル事無限シ」、

第八に「和尚、面ヲ西ニ向テ」とある。

また、五孔を表すものがみられ、中でも口が多くみられ、第一に「踊口ノ中ニ入ト見テ夢覚ヌ」、第二に「程モ無ク口ヨリ吐キ出スヲ見レバ」とあり、第四に「道照目ヲ開テ弟子ニ告テ云ク」とある。

分泌物に関するものでは涙が多くみられ、第一に「此ヲ聞テ、涙ヲ流シテ」、「大臣ノ手ヲ取テ涙ヲ流シテ宣ハク」とあり、第二に「涙ヲ流テ罪ヲ謝シケリ」とある。